

# NPO 法人ぴーす

## 平成19年度 活動報告書



ぴーすは、NPO 法人を設立して4年目となりました。

あいかわらず、学齢期障がい児の子育て真っ最中の母達が集まり、毎日にぎやかに活動をしています。普段は我が子の子育てに悩みつつ、まるでそのストレスをぴーすの活動で発散するかのよう働く母達は、とてもピカピカ光っています。

「自分の可能性を最大限活かすことが大事」、これは障がいのある子も、障がい児の母も同じです。

ぴーすスタッフはみんな、自分の、そしてぴーすの可能性を信じて、ちょっぴり・・・、いや、かなり背伸びをしながら、懸命にそれぞれの活動に没頭しています。

そんなぴーすに対し、ありがたいことに、好意をもってくださる方がどんどん増え、昨年度は関わる人達がより一層幅広くなった感じがしました。とてもうれしいことです。

そこで、平素、当法人をご支援・ご指導いただいております皆様へ、19年度の活動報告を提出させていただきます。どの活動も、スタッフの思いがたっぷりこもっているもので、報告書も大変分量の多いものになっておりますが、ご一読のうえ、今後も更なるご支援ご鞭撻いただけると幸いです。またお読みになった感想やご意見などなどもいただけるととてもありがたいです。

「福祉」というものを全く知らず、ただ「障がい児の母である」ことだけを取り柄として、日々「自分達に必要なものは何か?」「我が子をいきいきと輝かせるにはどうすればいいか?」「どうすれば、自分達らしくありのままに暮らせるか?」そんなことを自問自答しながら、スタッフ一同小さな力をかき集めての活動・・・、それは危なっかしいところばかりですが、今後も暖かいご支援をいただけますよう、よろしく願いいたします。

平成20年4月

NPO 法人ぴーす 理事長 小田多佳子

## == 目次 =====

1 ページ	年間の参加者数、及び活動数、会員数
2～3 ページ	年間の活動報告＝月日別に活動した内容を記載
4 ページ	事業別報告 ■余暇活動■ 1：おもちゃ図書館ぽっぽ 幼児期の障がい児を対象に、月に1回遊びの場を提供
5 ページ	2：外出グループぴっぴ 高学年以上の障がい児の「友人との外出」を支援
6 ページ	3：音楽サークルドロップス 障がい児が音楽を楽しむ活動を支援
7 ページ	4：水曜クラブぷらっしゅ 重度重複障がい児の e-AT を利用した余暇活動支援
8～9 ページ	5：放課後クラブぱる 重度知的障がい児の放課後活動を支援
10 ページ	6：スマイルシックス ダウン症児の余暇活動支援
	■情報提供■ 1：メールニュースふぁに 障がい児に役立つ情報を月～金の毎日メール配信
	2：ぴーすのメールマガジン ぴーす利用会員向け月刊マガジン
	3：プリズム通信 発達障がい啓発チームプリズムの会員に配信する情報
11～12 ページ	■企画制作■ 1：幼児知的障がい児の母親対象連続勉強会 小学生の母親が講師をつとめ実施した勉強会
13 ページ	2：小さなセミナー 少人数で実施する障がい支援グッズ製作や座談会
14 ページ	■啓発活動■ 1：発達障がい啓発チームプリズム 発達障がいを市民の草の根の力で啓発するチーム
	2：障がい児者のための防災を考えるプロジェクト 防災を「障がい児者」の観点で研究などをする事業
15 ページ	■委託／指定事業■ 1：ぴーすの支援センター 堺市委託の障害者児生活支援事業
	2：ぴーすのヘルパーステーション 大阪府指定の居宅介護等支援事業
16 ページ	■障がいを支援するモノの販売■ 障がい児の暮らしに役立つグッズや書籍の販売
18 ページ	その他／メディア掲載、講師派遣報告

ぴーすは、障がい児の余暇活動をさまざまな形で支援や運営をしています。平成19年度に支援及び運営をしたグループの、個別報告は以下の通りです。

1：おもちゃ図書館ぽっぽ

たくさんのおもちゃが揃っている中で、障がい児とその兄弟が気兼ねなく自由にのびのび遊べる場所の提供をしているグループ。対象は0～10歳程度の障がい児とその家族で、会場は堺市総合福祉会館プレイルームです。毎回子どもたちは思い思いに遊び、お母さんたちは子どもたちを見守りながらぽっぽで知り合った仲間たちといっしょに子どもの成長を喜びあったり、時には悩みの相談や情報交換をしたりしています。

同時におもちゃの無料貸出もしています。

活動暦は10年目となりましたが、10年間変わらず月に一回（第4土曜日 11:00～16:00）の定期開催をしています。スタッフは現在64名。開館当初から関わるスタッフに加え、参加者の中から新たにスタッフに加わってくれる人もいます。

また参加する人も、すっかり常連さんになった人たちに加え、毎月数組の初参加があります。

『ぽっぽ』は、いつも新しい顔をお迎えし、仲間の輪が広がり続けているのです。

平成19年度は

開催回数：11回（10月は福祉会館が閉館で実施できず）

参加者：57～124名（月平均91名）年延べ数1,002名

おもちゃ貸出数：8～35点（月平均16点）年延べ件数181件

その他の活動

活動	内容	回数	参加者数
機関紙よっTOYで！	編集会議・印刷	年11回（月1回）	延べ 55名
クリーニング	おもちゃの清掃	年9回	延べ 60名
スタッフ会議	開館の打合せ	年3回	32名
総会		年1回	13名
合計			160名

開館日・その他の活動合わせての延べ総数 1,162名

★ある月の活動の様子

大きなソフト積み木を重ねてその上に登るのが大好きな小1のMちゃん。

その遊びを、初参加のNくんがそばでじっと見えています。まだちっちゃいNくんはあこがれのまなざし。

やってみたいけど、慎重派のNくんは、少し戸惑った様子です。



それでもやりたい気持ちがいっぱいNくんは、スタッフに「積み木、積んで～」とクレーンで要求。できあがった積み木のタワーに恐る恐る登っていく姿はまさに小さな冒険家！

グラグラしながらも脇で支えるスタッフの顔を時折見ながら、積み木の上に立つことができました。やったね！Nくん(´\_`)ーお母さんにも「すごいね！」と誉めてもらえました。

ぽっぽは、ぴーす会員以外でも誰でも参加可能なグループです。

小学4年生以上の障がい児の、グループ外出の支援です。お母さんから離れて、お友達と外出！

グループは、年齢や障がい程度に合わせて構成。

現在は重度知的障がいの中学生チームと 軽度知的障がいの小学生チームの2グループ。

月1回、土曜日に活動をしています。

### 平成19年度は

#### ★重度知的障害児中学生グループ

実施回数：3回（年間延べ参加数18名）

行き場所：堺駅前ボウリング、扇町公園、上野芝ボウル

#### ★軽度知的障害児小学生グループ

実施回数：12回（年間延べ参加数75名）

行き場所：防災センター、ハーベストの丘、グリコピア神戸、よしもとお笑い博物館、キッズプラザなど

#### ★活動の様子

##### 重度知的障害児中学生グループの様子

行き先の途中・・・例えば駅などでお友達と合流。中学生らしい待ち合わせです。まずはみんなで相談して（言葉ではなく、お店の様子など見て）決まったところで昼食を食べて目的地へ。

ボウリング場へ行ったときなどはお友達を意識して「がんばれ」と声援を送るなど各々に楽しんでいます。

##### 軽度知的障害児小学生グループの様子

このグループは毎回リーダー役を交代、リーダーは行き先を決定し、一週間前にはメンバー（友人）に連絡します。ある回のリーダーはIくん。この日は久しぶりにビッグバンに行きました。

スタッフの話によると、泉ヶ丘到着後「マクドナルドに行こう」とMくん。「まだ早いだろ」とIくん。

「みんなで相談したら？」というスタッフの助言にMくん、一人ひとり説得に回り、めでたくマクドナルドにまともりました。

昼食後、ビッグバンへ入場。ワニの遊具でTくんに

「スタッフのNさん食べられて～」と言われ、Nさんが口のところに寝そべり、「助けて～」と手を伸ばすと無視され、（どうすれば・・・）と固まるスタッフNさんをよそにTくんは自ら食べられ、無事ワニの体内に消化され・・・楽しく過ごしました、笑。

帰り、深井駅前のジェイコム店頭TVでアニメが放送されていて、帰りはJくんの大好きなケロロ軍曹が流れていました。

それを見たJくん、意気揚々と「次の場面でこんななるで～」という解説が始まり、聞き入る他の友達・・・時間が気になるスタッフ・・・苦笑。

このグループは、毎回、スリルとサスペンスに満ちています。



障がい児が集団で音楽を楽しむ支援をしています。年齢や障がい状態にあわせて小さなグループを構成しています。幼児は保護者と一緒に、学齢期はひとりで or ヘルパーさんと一緒に、歌う・聴く・演奏する・踊るなど自分を自分らしく楽しみます。現在3グループが月1回、土曜日に活動中です。

### 平成19年度は

実施回数：12回（年間延べ参加者数158名）

実施場所：ソフィア堺ミュージックルーム

#### ★第1グループ/重度知的障害児中学生グループの様子

子ども達は単独で参加しています。「歌う」は数曲の中から自分で曲を決めみんなで歌います。「楽器」太鼓のリズム打ちとハンドベルでの合奏を練習中です。「聴く」先生のピアノ演奏をしっかりと聴いています。この春みんな高校生になるので、ドロップスも卒業しました。修了証書を受け取った彼らは輝いてましたよ。

#### ★第2グループ/幼児～小学1年生のグループ（コミュニケーションの困難な児童）

母と一緒に参加しています。各自が自分のスケジュールを用意。前もってすることの見通しをもって、1つ1つこなしています。挨拶はビッグマック（会話補助装置）を使い発語のない子も元気に「こんにちは！」。「歌う」カラオケで流す曲を歌う（主に母達が）、「踊る」は曲ごとに歩いたり、飛んだり、寝転んだり。「楽器」は太鼓や鳴子・鈴を、「聴く」では先生のピアノを座って静かに聴く練習中です。

#### ★第3グループ/幼児～小学1年生グループ（比較的コミュニケーションできる児童）

「歌う」では数曲の絵カードから選んでみんなで歌う、「踊る」は歩く、飛ぶ、フラフープで使う、「楽器」は一人ずつハンドベルを持ち簡単な合奏を練習中。ピアノの生演奏も静かに聞いています。

### 【活動の様子・感想】

#### ～第1グループの様子～

「みんなで歌う」時、リクエストを聞くと、『うみ』を選んだHさん（重度自閉症：中3）。歌が2番になって、先生がうっかり間違って3番の歌詞を歌い始めたら、すかさず手をあげて立ち上がり、「う～みはおおなみ…」と正しい歌詞を大きな声で歌い、違うでしょ！と訂正してくれました。

「楽器」では、先月力強く叩きすぎて破れちゃった太鼓に変わって、新しく登場の太鼓に興味津々！

「私これ！」とお気に入りを選んだMさん（重度ダウン症）。太鼓の音を確認するかのようによく・弱く叩いてみていました。とても響きがよく、心地よい大きな音が出るので、テンションがどんどん高くなり、だんだんリズムが早くなり、最後はかけっこのようになりましたが、新しい太鼓の響きにゴキゲンでした。すこし前から取り組んでいる「ハンドベル」では、先月よりベルの色に合わせた楽譜が登場～！一目でわかる工夫はすごいもの！アツという間に楽譜を見ながら弾けちゃいました。

「ド・ミ・ソ」、「ド・ファ・ラ」などの和音にも挑戦してみました。ピアノの伴奏にあわせての演奏が始まったなら、和音が、きれいにタイミングよく鳴らせて、ヤッター！でした。

#### ～第2グループのM君の様子～重度知的障害を伴う自閉症：養護学校小学部1年～

あいさつの時、名前を呼ばれると「はい」と手を上げてお返事。もちろん「こんにちは！」が録音されているビッグマックもしっかり押していました。

「歌う」では、前へ出てきてカラオケの画面を良く見ていました。

「おどる」では、いつもより参加する場面が見られ、くしゃみの歌ではフラフープを使うのですが、Mくんが1番にフラフープを取りに来て、自分でフープを持って準備。母の「フラフープの中に入っていい？」はゼスチャーで拒否！音楽がなると一人でタイミングよくフープを落としていました。

途中では積み上げたイスの中に入ってしまったり、ロッカーに登ったりしてしまっていますが、大好きな楽器になると床に座りちゃんと準備。太鼓はとても集中して叩いていました。鈴も最後まで手に持って取り組むことができました。

ドロップスは、ぴーす会員のみが利用できるグループです。

e-AT（電子情報支援技術）を用いた肢体／知的重複障がい児の余暇活動支援をしています。身体の不自由さを e-AT 利用で補い、人に動かされるのではなく、自分の意志でおもちゃを動かす／音楽を聴く等々様々な活動をしています。

#### 平成19年度は

実施回数：11回（年間延べ参加者数190名）

実施場所：堺市総合福祉会館プレイルーム、他

#### ★開催時のようすより

現在は百舌鳥養護・堺養護の学齢期の重複障害のある児童が、おおむね月に一度、水曜日の放課後に活動しています。子供の遊ぶ姿を通して、保護者は支援機器の利用やコミュニケーションの支援について学んでいます。

12月の開催時、プチ・クリスマス会をしました。

おやつタイムのテーブルや壁面にクリスマスの飾り付けをして「季節の行事」を演出！準備する親もワクワク楽しい気分になりました。

ぷらっしゅではケーキをおやつにするときはローソクを立てて、子どもに吹き消してもらうのが定番。もちろん方法は「ぷらっしゅ流」です。みんな「口でふ〜っと吹き消す」ことができない子どもです。以前は家族が代わりに消したりして、しらけたムードになることも…。でも、支援機器とミニ扇風機をつなげば子どもが自分で消すことができ、みんな笑顔になります！

ちょっとした工夫で、子どもが本当に「パーティの主演」になれる。お家のお誕生日でも定番にしてほしいなと思っています。

最近のようすでは、電動自動車が人気。子ども用電動自動車に大型のスイッチを装着し、自分で運転できるようにしています。それをもっと楽しめるように障害物をつくって「運転コース」を意識してもらうようにしました。子ども達は凹凸にのりあげてはガタゴトを楽しんでいるようでした。困った時は、同じく自動車に取り付けた会話補助装置で「助けて〜」と人を呼ぶ…これがしっかりと定着しています。



#### 保護者の声より

ぷらっしゅの子どもたちは知的に最も重度だったり、肢体に不自由があったり、そして自閉症があったりします。なかには3つともがかぶっている子どももいます。みんな高学年以上ですが今も食事、着替え、排泄も介助が必要です。なので、母親と子どもが一緒にそばで過ごす時間がとても長くなってしまいます。実は、それがぷらっしゅの子どもにとって困った事なんです。それは「そばに居てやってあげるのが当たり前」になってしまうこと！

ぷらっしゅメンバーのひとりがあることに気がつきました。

「(子どもから離れてどうするか様子を見るようにアドバイスを受けて) 我が子の要求の弱さを実感できました。これもやっと離れることができ遠くから我が子を見たことで一段と分かったことなのです。これからは離れて様子をよく観て、いろんな発見をしていきたいです。もちろん解決方法も忘れず…考えたいです。家ではどうしてもずっと側に張り付いてしまっていました。そのことでパニックになることもあると聞き、気をつけなきゃな〜と思いました。」これは距離的なことだけではありません。たとえ身辺自立が出来ていて、知的にも軽いお子さんでも精神的に母が張り付いてしまっているのは同じ事が言えるのではないのでしょうか？我が子との「適切な距離」をとって、はじめて観える大事なことたくさんありそうです♪

ぷらっしゅは、ぴーす会員のみが利用できるグループです。

ぱるは障がい児の放課後生活を支援しているグループです。

障がいの程度に関わらず年齢らしい暮らしぶり、

「自己決定・コミュニケーション・地域性」を大切に活動しています。

具体的な内容は、学校終了後みんなで公共交通機関や徒歩で集団下校をし、

活動拠点となる「家」に帰ります。

家では自分のやりたいことを、友達を意識しながら楽しむ・・・

遊びだけでなく「勉強＝自立課題」やお仕事にも取り組んでいる・・・

そんなやわらかな集団活動です。



### 平成19年度は

実施回数：約240回（年間延べ参加者数2,640名）

実施場所：ぱるの家（中区深井清水町）、びーすの家（北区百舌鳥梅町）

実施日：月、火、水（小1～高1）、木（小1～3年のみ）、金（小4～高1）

参加者 小1＝3名 小2＝3名 小3＝3名 小4＝2名 小6＝1名

中1＝3名 中2＝5名 中3＝3名 高1＝1名

※長期休暇は、午前11時から午後4時まで、活動拠点の家を中心に活動(昼食含む)しました。

※行事として、遠足を数回実施（さをりおりの森・大阪市立科学館・なんばパークス他）

### ～子ども達のように～

#### ◆小1：Aくん（重度自閉症）

始めたころは、集合場所にいつも泣き&怒りながら遅れてやってきてました。その内スクールバスを見送ることで泣くことなく来られるようになり、ぱるにもスムーズに入れるようになりました。スケジュールも最初は意味がわからず、拒否も多かったのですが、回を重ねると、おやつは何を食べるかカードで選択できるようになり、スケジュールのカードも少しずつわかってきたようです。今では「スケジュールの一番は、おやつ！」とぱるに着くなりカードを取ってアピール！するほどになりました。

#### ◆小2：Bくん(重度自閉症)

2年目のぱる。すっかりなれてあれこれ自分から動いています。下校時は、信号待ちのときに車道ぎりぎりまでいったりウロウロすることが多く、安全確保にスタッフも気が抜けませんでした。そこで足形を用意して、立ち位置を示すと・・・すんなり受け入れてくれて、安全に信号待ちが出来るようになりました。ぱるでの遊びはプラレールがお気に入り、ジオラマのように他のおもちゃも飾って線路をつなげて、母が迎えに来ると、自慢げに見せています。

#### ◆小4：Cくん(重度自閉症)

自販機でジュースを買う練習しています。ボタンを押してお金を入れる、ボタンを押してジュースを選ぶという手順がなかなか定着しなかったため、スタッフの対応を統一してみました。今はとても上手になっています。以前はおもちゃをかごとひっくり返してしまい、片付けるのに時間がかかっていましたが、今はしっかり片付けて次の行動にスムーズに移れるようになって来ました。要求をスタッフに伝えることも、カードを使い上手になってきました。

#### ◆中1：Dくん(重度自閉症)

最近、コーヒーを飲むことがブームになり、ぱるでは自分で入れて飲んでます。最初の頃、まずコップにフレッシュを入れてそれを先に味見・・・フレッシュが少なくなったところにコーヒーを入れると・・・「フレッシュが少ないやん！」と怒って要求～。「それは作り方が違うよ」と手順者を作って見せると、その通り作りおいしいコーヒーは入れるようになりました。よかった、よかった。

#### ◆中2：Eくん(重度ダウン症)

スタッフにコーヒーや紅茶を入れるお仕事をしてれています。始めた頃は、お仕事の時間になる、何か言いたそうにウロウロ。どうやらスタッフに注文を聞くのを戸惑っているようでした。そこで「注文ボード（コーヒー・紅茶と書いた欄にスタッフの写真を貼りつける物）を作ってみるとスムーズに出来るようになりました。注文が済めば、自信満々な顔で、ひとつひとつ丁寧にいれてくれ、コースターを敷いて「どうぞ!」と伝えてくれます。

#### ◆中2：Fさん(肢体不自由・精神発達遅滞)

お姉さんぶりを発揮しています。年下の子が下校時遅れると待っていていたり、違う方向へ行ってしまうとスタッフより先に気づいて呼びにいかれたり、とても頼もしいです。ばるのおやつを買出しも、スタッフお手製の買出しチェックボードを使って、確認して買ってきます。みんなの役に立つことがとても自信になっているようです。

#### ～保護者の感想～

##### ☆小1 女児の保護者

実はおおあまに育てていましたので、ばるの体験の時には、親子ともども真っ青でした。スケジュールも全く手をつけていませんし、正直やっていけるのか不安で一杯のスタートでした。ところが、たった一回の参加で、自分のカバンをしっかり持って歩き出した姿にびっくり。それからは私の強い娘の事、何か気にいらないと何もせず泣いて終わりの日も多々あり、続けるべきかと悩んだ日もありましたが、親の心配をよそに、娘はいつの間にかばるに馴染み、スケジュールも今ではちゃんと見てくれるようになりました。気ののらなかった課題もやれる日も増え、徐々に成長してくれる姿はうれしい限りです。ばるの日は、しっかりとスケジュールを見て、納得して登校しています。ばるへの参加は、我が家にとっては、今のところ大正解のようです。

##### ☆小3 女児の保護者

ばるが楽しいようです。あいかわらずばるの日の朝は、学校かばんは母に持たせても、ばるのかばんはしっかり自分で持っています。好きなお友だち、苦手なお友だちとも、かかわり方を自分なりに考えているようです。当たり前のお友だち付き合いのようなものが育ってきてるようで、とてもうれしく思っています。

##### ☆中2 男児の保護者

今回、私自身が2日間ばるを見にいきました。自分の子の様子をゆっくり見れ、『こんな事が出来るんだあ〜』と思う事が多かったです。スタッフの方がその子によっているんな工夫をされていて、とても嬉しく思いました。

##### ☆中2 男児の保護者

色々で経験させていただいてありがとうございます。学校から帰ってくるとほとんど毎日テレビゲームをして、する時間もだんだん長くなりやり過ぎが気になっていた時、ばるにお世話になることができ、もうすぐ2年になります。家でも自分でスケジュールを組ませるようにしました。テレビゲームをする時もタイムタイマーをあわせてする習慣がついてきました。もちろんタイマーが終わってもなかなか終われないことも多いですが、ゲームをする時間は以前よりずっと短くなり、自分から進んでお手伝いをしてくれることも増えてきました。おじいちゃんおばあちゃんが遊びにくると、はりきって紅茶をいれてくれます。うれしい変化です。言葉も増え「バカ・ブス・ブタ・ケチ…」悪口も覚え困った〇〇ですが（苦笑）、ジェスチャーを使ったりしながら、コミュニケーションをやりかたも覚え、頼もしく思います。ばるへ行く日をすごく楽しみにしています。これからもよろしくお願いします。



ばるは、ぴーす会員以外でも利用できるグループです



スマイル・シックスは、小学4・5年生のダウン症の6人グループです。月に1回程度、土曜日などに集まり、ボランティアさんと共に、外出・買い物・工作・楽器遊びなどをして、友達や人との関わりを大切にしながら、色々な経験を通じて学んでいるところです。

### 平成19年度は

実施回数：15回（年間延べ参加者数151名）

実施場所：堺市総合福祉会館プレイルーム・青少年の家

活動内容：ビッグバンでのフリーマーケットへの参加、家族の交流としてのハーベストの丘への外出や、福祉会館プレイルーム・青少年の家で音楽活動などをしました。音楽活動では椅子取りゲームをしたり、友達を意識してハンドベルをしたりしています。

## ■ 情報提供 ■

ぴーすは、障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール（パソコンや携帯）などを利用して提供しています。平成19年度に提供した情報は以下の通りです。

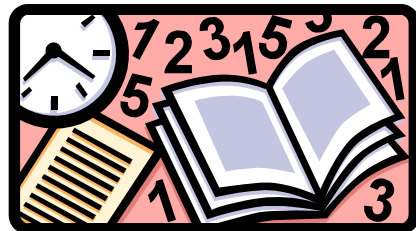
### 1 : メールニュース『ふぁにい』

月曜～金曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを配信しています。

### 平成19年度は

配信回数：321件（20～32件/月）

配信内容：堺市やその近辺で実施される講演会やセミナーなどの紹介、  
ファインプラザやアミティ舞洲などで開催されるスポーツ教室や絵画教室の情報、  
堺市内で実施される映画会やコンサート・イベントの案内、  
映画やテレビ番組の紹介、  
障がい児関係の書籍やホームページの紹介、  
障がい児が利用する支援グッズなどの紹介、  
障がい割引のあるものの紹介  
障がい児関係の内容が掲載された新聞記事の紹介  
堺市内の障がい児団体やサークルの活動紹介 など



### 2 : ぴーすのメールマガジン

毎月末にパソコンで配信している会員向けメールマガジン（一部の方にはFAXや郵送）です。

### 平成19年度は

配信回数：12本

配信内容：一ヶ月のぴーすの活動報告、翌月以降のぴーすが取り組む活動の情報、余暇活動グループのようす、お勧め書籍やグッズの紹介、スタッフコラム（スタッフの子育て日記のようなもの）

### 3 : プリズム通信

発達障がいを啓発するチーム プリズムのチームメートに向け配信されている通信。おおむね月1回程度。

### 平成19年度は

配信回数：7本

配信内容：プリズム活動の報告や、堺市内の発達障がい関係の情報、新聞記事などを配信

ぴーすは、障がい支援に関するセミナーや勉強会を企画制作しています。また障がいを広く啓発するためのプロジェクトを継続実施しており、平成19年度の活動は以下の通りとなりました。

1：幼児知的障がい児の母親対象『連続勉強会』

我が子の障がいに気づいて間がない幼児期のお母さん達を対象に、少し先輩の小学生母親が講師役をつとめ、体験談・失敗談を交えつつ、共感・励ましを伝え、生活の工夫・親の心構えを紹介することにより、少しでも早く、我が子への愛情・子育ての楽しさ・将来への明るい希望を取り戻してもらうことを目的に実施している勉強会です。

平成19年度は第4回となり、第1回の受講生だった母達が講師役をつとめました。

参加数は、受講者延べ数332名、託児延べ数64名、ボランティア延べ数88名、託児ボランティア87名、合計年間延べ数551名となりました。

実施内容は

1	5月18日(金) 堺市総合福祉会館 大研修室	<b>子育ての悩み・・・(講師母の体験談あれこれ～)</b> ～先輩のお母さんのしんどかった幼児期のこと～(障がい受容/身辺自立など)現在の講師の子どもの様子をビデオで紹介(以後、毎回実施) ・参加者に子育ての悩みを聞いてもらう項目別アンケート配布 ・お昼から参加者同士の交流を目的としてグループトークを開催。
2	6月12日(火) 堺市総合福祉会館 大研修室	<b>これってなあに？(自閉症/発達遅滞/知的障害/染色体異常・・・)</b> ～障がい特性と感覚について～ ・こどもの不思議な行動や様子についてて手がかりを知る。
3	7月11日(水) 堺市総合福祉会館 大研修室	<b>ちょっと先のことだけ～(保育所・幼稚園・学校・放課後・・・)</b> ・養護学校と養護学級のちがいや保育所や幼稚園情報など少しだけ先の進路を考える手がかりをお話。堺市の福祉制度や社会資源の紹介も。
4	9月18日(火) 堺市総合福祉会館 大研修室	<b>気になる行動・・・(ジッとできない/こだわり/ひとりごと)</b> じっと座ってられない、クルクル回り続けるなど奇妙な行動。冷たい視線に泣きたくなることも…問題行動の捉え方を知り、効果的な対処を考える。
5	10月3日(水) 堺市総合福祉会館 大研修室	<b>気になる行動・・・(パニック/多傷/自傷 etc)</b> ～パニックや自分や周囲の人をたたいたり、かんだりすることについて～ ・障がい特性と行動、パニックや自傷、他傷などに対する母親の心構えについて
6	11月7日(水) 堺市総合福祉会館 大研修室	<b>ことばとコミュニケーション</b> ～ことばってどうすれば出るの？～ ・いわゆる発語にこだわらず機能的なコミュニケーションを大切さにすること また、こどもが主人公となるような暮らしの大切さについて
7	12月7日(金) 堺市総合福祉会館 大研修室	<b>具体的支援について～参加者からの報告～</b> ～参加者のモデルケースから学んでみよう。～ ・3名の受講者の子どもへの支援を「ぴーすの支援センター」と協力し実施する。 ・受講者の方から今回の支援から感じたことを報告してもらう。 ・他の受講者はモデルケースから障がい特性に応じた支援について学ぶ機会とする。
8	1月21日(金) 堺市総合福祉会館 大研修室	<b>今、母にできること・・・</b> ・ご近所や周囲にどう伝えたらいい？学校や園でお願いごとすると、『うるさい親』って思われたい？子どものよきサポーターとして、周囲とのよりよい関係作りや、気持ちがラクになる視点の転換などを提案。

9	2月15日(金) 堺市総合福祉会館 第3会議室	<b>障がい児のいる家族</b> 特別講師 ピーすメンバー：大阪府立富田林養護学校教諭 中村陽子 ・ 障がい児の兄弟姉妹に対する心がまえ、父や祖父母との関係やさまざまな家族のありようをお話しし、日々、笑顔で暮らせるお手伝いができれば…
---	-------------------------------	---

**★参加者の感想より抜粋**

**第1回 子育てをふりかえって・・・**

『みんな辛い経験、いっぱい泣いた経験があつてこんな強い母になれたんですね。子育てを楽しもうと感じました！』  
 『共感できる話がいっぱいでした。幼稚園よりやはりこちらの方が居場所かな～と感じました。』

**第2回 これってなあに? (自閉症・発達遅滞・知的障害・染色体異常・・・)**

『本で読んだりして、少しは情報があるけど、同じ境遇の人たちのナマの声が聞けてよかったです。普段の生活の中での例などわかりやすいです。』

**第3回 ちょっと先のことだけ～ (保育所・幼稚園・学校・放課後・・・)**

『まさに進路に迷っている最中なので、お話を聞いてよかったです。最終的には、ほんとうに子どもの必要に応じた環境作りをしていくことが大事なんですね。』

**第4回 気になる行動・・・じっとできない/こだわり/遊びやクセ**

『先輩達がとても明るく前向きに子供と向き合ってる姿をみられて自分も励まされたように思います。体験談の中では親にとっては気になる行動でも見方を変えて工夫すると、親も子もイライラせずに過ごすことができるという話は目からウロコでした。少しでも心に余裕を持って接していきたいなと力をいただいた時間でした。』

**第5回 気になる行動・・・パニック/多傷/自傷 etc**

『うちの子は一日に何回もパニックを起こします。まだ小さいので私の力で何とかなる範囲ですが、今日の勉強会でパニックの対処方法が少しわかったのでまた活かしていけたらと思います。何が苦手なのか、わかるチャンスととらえ、私も一緒にパニックにならないように気をつけたいと思います。』

**第6回 ことばとコミュニケーション**

『うちの子は3才で、まだ子どもからの要求が殆どなく、子どももどう表現すればいいのか分からないようです。指示なども分からず言葉もないのでどういう風にコミュニケーションをとればいいのか分かりませんでした。今日のお話を聞いて、子どもも自分の要求を伝えることが出来ればどんなにいいだろうと思いました。そのためには子供がわかる方法を考えなければと思いました。以前から視覚支援というのは知っていましたが、どう取り組んでいいのかわからずほとんど出来ていなかったのが、今日のお話を参考にして取り組んでみたいと思います。』

**第7回 具体的支援について～参加者からの実践報告～**

『私は何からカードやスケジュールにしたらいいのか分からず、言葉は少し出ているし、声かけで理解できていることもあって、今までやってこなかったのですが、今日の話聞いて、まずは声かけしないとわからないことからカードにし、見通しを立ててあげるためににもスケジュールを作って実践してみたいなあと思いました。』

**第8回 今、母にできること・・・**

『体験談は自分と重なる部分も多く、泣きそうになりました。全員にわかってもらおうと思っても無理…ってこと、納得できました。自分で思っている事も誰かに言ってもらえるとそうだなあと思えます。来てよかったです。』  
 『うちの子はトラブルがきっかけで障がいについて話さなければいけないことが多くそれがしんどいと思っていましたが、それも話せる機会だと考え方を換えればそんなにしんどいことでもないのかな～と思いました。今回皆さんの話を聞いて本当に気の持ち方によって楽になれるなと思いました。』

**第9回 障がい児のいる家族**

『初めて一年間参加させて頂いて、息子の障がいのことも色々理解が深まったのも大きかったのですが、何より「私だけじゃない、悩んでいるのは」ということが、私の中で一番強く感じた事です。』  
 『「なんで私の子が・・・」と悲観的になってばかりでしたが、同じ気持ちを持った先輩ママたちのお話を聞くことで、心を救われたことがいっぱいありました。』



ぴーすでは、障がい児の母達が、大きな講演会などよりも踏み込んだ、より内容の濃い勉強を行なうため、少人数で開催しているセミナーです。少人数であることが和気あいあいと話しやすいムードを作り出し好評です。

### 平成19年度は

実施回数：20回

実施内容：製作会「サポートブックを作ろう！」

「子どもを紹介するプリントを作ろう！」

「支援グッズを作ろう」

相談会「何でも相談会」

座談会「知的障がい児のしつけについて」

「障がい児の性教育について」

「軽度発達障がい児について」



### ★参加者の感想

～「サポートブックを作ろう！」に参加したお母さん～

- ・ず～っと前から作らなきゃ・・・って思っていたながら、なかなか自分ではできなかったものが、このセミナーに参加して、形になって持ち帰れ・・・ホントによかったです！子どものことを、自分の子どもへの接し方を・・・この作成会で改めて見つめ直すことができました。

～「支援グッズを作ろう」に参加したお母さん～

- ・今の自分の子どもの様子を知ることから始まるのだと実感！出来ないことが多いですが、出来ることを大切に伸ばしていきましょうとアドバイスを頂き、勇気付けられました。できるところから少しずつがんばっていきたいと思います。いろいろなお話からアドバイス、手順書まで作っていただいて本当にありがとうございました。

～「何でも相談会」に参加したお母さん～

- ・あらためてスケジュールの大切さを知りました。どんな訓練より家でいかに充実して過ごせるか・・・忙しい毎日で、忘れてしまいがちですが頭にいれておきたいです。
- ・いつもながら「目からウロコ」のお話しでした。疑問一つ一つに答えて下さってわかりやすかったです。他の人のお話の中にもわが子にあてはまることがあり、「う～ん」と考えさせられました。

～「知的障がい児の性教育について」に参加したお母さん～

- ・性教育といえば、やはり先の事かなと思っていましたが、今の時期からの心がまえが大切だということを感じました。10歳に近づく時にもう1度このセミナーを聞きたいなと思いました。
- ・少人数制だったので、聞きたい事などがスムーズに話せたり出来て良かったです。
- ・距離感を学ぶ、教えていく大切さをしみじみなるほど～と考えさせられ、心構えもできました。今日の事を実践で生活に活かしていきます。

～「軽度発達障がい児について」に参加したお母さん～

日常生活では、同じ障がいをもつ子のお母さんと接する機会がないので、先輩たちのお話を聞いて、勉強になりました。就学を控えてどう動けばいいか参考になりました。またこんな機会を作ってください。

ぴーすは、障がい児のことを一般社会に正しく理解してもらうための啓発活動に取り組んでいます。平成19年度の活動は以下の通りとなりました。

### 1：連続勉強会&発達障がい啓発チーム プリズム

理解されづらい発達障がいをたくさんの人に広く・正しく理解してもらうために、本人・保護者・関係者が力を合わせ、草の根の力で啓発をするチーム。現在チームメイト数は148名です。

平成19年度は、幼児障がい児の母親向け連続勉強会との共催で、特別講演会を実施しました。

日時： 2月29日(金) 10:30～12:30

場所： ソフィア堺 研修室1・2

内容： 自閉症の特性に寄り添う医療支援～歯医者さんを好きになる

講師： 高原牧氏(歯科衛生士/介護支援専門員/自閉症スペクトラム支援士上級(エキスパート))

#### ～参加者の感想より～

「いつも通ってる歯科は、今日聞いたような子どもに寄り添う支援はありません。でも求めるばかりではなく、母も今日聞いた話をヒントに1つずつ工夫して、子どもが歯科を嫌いにならないようにしたいと思います」  
 「子どもは歯医者が大嫌いなのでいつも困っていました。つい足も遠のいて……。でもこのような支援があるのだとわかって試してみたいと思います。」

また、堺市障害者対策推進協議会 発達障害者支援専門部会に、理事長 小田多佳子が出席。発達支援センター連絡協議会に、副理事長 松本尚子が出席と、発達障害関連の関係部署との連携がさらに深まりました。

### 2：障がい児のための防災を考えるプロジェクト

今まであまり取り上げられなかった「障がい児の防災」をテーマに、一般市民に向け「障がい児という災害時要援護者の存在」についての啓発をしようという活動です。

平成19年度は、堺市福祉助成を受け、防災手帳・ワッペン等の周知のための啓発活動として、防災ポスターを製作し広く市民に『災害時要援護者マーク』を知っていただけるよう取り組みました。その一環として、2月の民生委員児童委員理事会に出席させていただき、ポスター配布と掲示のご協力を依頼しました。その後、市内全民生委員・児童委員に配布されました。また堺市危機管理室と連携し今後の『災害時要援護者マーク』の周知や防災手帳やワッペン等の普及のための次年度に向けての指針を確認しました。

そして1月には、堺市より委託を受けた(有) コラボねっとによる『災害時要援護者避難支援実証等業務におけるヒアリング調査』に要援護者家族としての聞き取り調査に協力しました。

また年間を通じぴーすのこれまでの『障害児のための防災を考えるプロジェクト』の取り組みについて、以下の各所から問合せ等があり、冊子や資料・パンフレットの送付など、情報提供をしました。

- ・札幌市危機管理対策室
- ・神奈川県愛川町消防本部
- ・小田原市消防本部予防課
- ・世田谷区立千歳台福祉園
- ・甲府市障害福祉課
- ・東京都羽村養護学校
- 他

さらに、内閣府ホームページ「防災情報のページ」の災害時要援護者対策の進め方(報告書)にぴーすの防災への取り組みが掲載されています。『ガイドラインに沿った先進事例等』に堺市の取り組み、『地域団体の活動事例』に17年度の障がい児の防災アンケートや「障がい児の防災を考える一冊」のとりまとめが報告されていて、昨年度制作した防災ワッペン・手帳については、要援護者自身が身につけ・携帯し発信するものとして全国でも類も見ない試みとして注目されているとのこと。今後、広く一般の方々に、このマークを知っていただくこと、災害時要援護者の存在を知っていただくことに力を尽くしていきたいと思っています。

ぴーすは、相談事業として堺市の委託（堺市障害者（児）生活支援事業）と大阪府の指定（相談支援事業）として事業所：ぴーすの支援センターにおいて相談事業等を実施しています。また大阪府指定の居宅介護支援事業＝ぴーすのヘルパーステーションで居宅介護等支援事業も実施しています。合わせて、平成19年度の活動は以下の通りです。

1：ぴーすの支援センター（障害者生活支援センター）

年間相談実人数：311名 年間相談延べ件数：838回

障害種別

聴覚	肢体	内部	知的	精神	重複	その他（不明・発達障害含む）
5	8	3	382	9	37	273

相談内容：自立支援法関係の相談（居宅介護支給量の計画や使い方など） 146件  
 施設などから地域生活へ移行するための相談 25件  
 既存の事業所やサークルの紹介、支援機器利用や余暇情報の提供 126件  
 問題行動への対応方法や障害の理解を含む生活全般の相談 207件  
 行政などの専門機関の紹介 12件  
 障害児母親のピアカウンセリング 42件  
 その他（学校などについて等） 159件  
 ケアプランの作成 14件  
 サービス利用計画の作成 123件

平成19年度の相談の傾向として・・・

前期（4月～9月） 学齢期・幼児の保護者からの相談が多かったです。 → 学校・生活面での相談  
 夏休み前後に「障害受容」についての相談が多数ありました。

後期（10月～3月） 成人の方の地域移行の相談や、発達障がい者児についての相談が多くありました。2～3月  
 は入学を前に学校との関わりやのびのびルーム不承認のための相談が集中しました。

その他、支援センター連絡協議会、障害児支援パンフレット作成検討会議、北区自立支援協議会、堺市自立支援協議会  
 会当事者部会などに参加しました。

2：ぴーすのヘルパーステーション（障害者居宅介護支援事業所）

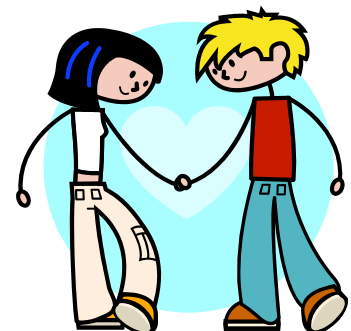
平成18年6月に開設し、1年9ヶ月経ちました。利用者のほとんどが児童です。

現在、契約利用者は38名、登録ヘルパーは20名です。平成19年度の育児支援ヘルパーの利用は3名でした。

ヘルパーの数が充分でないために、新規の利用者はほとんど受け入れができていない状態です。この3月にも学生の登録ヘルパーが4名抜けるなど、依然としてヘルパー不足が続いています。そんな中でも登録ヘルパーさんが知り合いのヘルパーさんを紹介してくれるなど、少しずつつながりもできています。今後も、ヘルパーさんにとっても魅力のある事業所作りを目指していきたいと思えます。

平成19年度の研修は

- 4月 演習：コミュニケーションサンプル
- 5月 社会福祉の歴史と障害観について (5)
- 6月 AAC（拡大・代替コミュニケーション）の理解
- 9月 社会福祉の歴史と障害観について (6)
- 10月 e-AT（電子情報支援技術）ITからIATへ
- 11月 社会福祉の歴史と障害観について (7)
- 12月 もう一回基礎編 ミニ研修会 発達障害と障害特性について
- 1月 社会福祉の歴史と障害観について (8)
- 2月 もう一回基礎編



「障がい児・者のたのしい暮らしを支援する」ための様々なものの販売などを行っています。

平成19年度に取り扱った商品は、以下の通りです。

《**びーすオリジナルイヤーマフ**》 発達障がいや知的障がい児者には聴覚過敏のある子・方がいます。



そんな人達が、カーレースのレーサーがエンジンの爆音から耳を守るために使用されていたイヤーマフを支援機器として使うようになりましたが、高価なためなかなか手が出なかつたりしました。

そこで、びーすではカー用品専門店の“デューポイント”さんのご協力により、災害時要援護者マーク入りのオリジナルイヤーマフを作成。安価で提供することができるようになりました。

このイヤーマフは『おめでとう自閉症サポート企画』でも取り扱いいただき、10ヶ月で400個を超えるニーズがありました。

《**防災手帳・ワッペン・キーホルダー**》

防災手帳・ワッペン



びーすでは『障害児のための防災を考えるプロジェクト』に取り組み、当事者の視点で考える防災を提言しています。

このプロジェクトの中で、災害時要援護者が使用する防災ワッペン・防災手帳・キーホルダーをオリジナルで作成し、有償配布をしています。手帳には、名前や緊急連絡先、家族の集合場所や最寄りの避難先などの他、援護が必要な理由（障害名など）、コミュニケーションのとり方など書き込めるようになっていきます。ワッペンは、裏ポケットに名前・連絡先・要援護の理由を書き込む用紙を入れるようになっていきます。マスコミにも広く取りあげられ、配布数が今年度だけで手帳は300冊・ワッペンは700枚となりました。

オーダーメイドのキーホルダーも25個のご要望がありました。

《**発達障がい啓発冊子**》

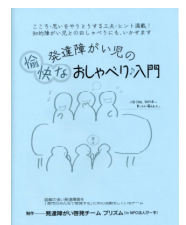
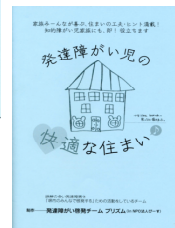
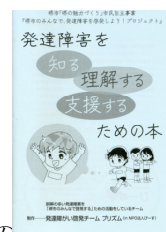
『発達障害を知る・理解する・支援するための本』

『発達障がい児の快適な住まい』

『発達障がい児の愉快なおしゃべり入門』

プリズム講演会で資料として配布しました。その後もご好評いただき増刷し、有償配布いたしております。

わかりやすい発達障がい啓発の冊子として、堺市の新任養護教諭研修の資料としても活用いただきました。今年度は506冊を配布しました。



●そのほかの、びーすオリジナル商品

・歯科受診用カード（写真提供：長崎口腔保健センター）

●その他の支援グッズ（抜粋）

・タイムタイマー ・カラープラスチックパイプ ・巻物カレンダー ・コミュニケーションメモ ・箸蔵くん

※ 箸蔵くんの幼児用は、従来特注品として受注生産であったが、びーすでのニーズが高く、現在では、メーカーのカタログにも幼児用が掲載されるようになった。

●書籍 発達障がいに関する書籍（売れ筋商品）

「光とともに」 「自閉症の子どもたちの生活を支える」「自閉症のすべてがわかる本」 「思いつき支援ツール」

平成19年度 売り上げ件数

・支援グッズ 472件 ・書籍 356件 合計 828件

- 4月25日：びーすの防災ワッペン・手帳・キーホルダーがインターネット（ヤフー・ニフティー・イッツコム）に紹介される。
- 
- 5月：H19年2月に行なわれた堺市主催『地域福祉セミナー』でびーす副理事長 松本尚子が講演した内容が堺市のHPに掲載される。
- 
- 6月30日：ビックアイで行なわれた、第1回災害支援ボランティアリーダー養成研修において『障がい児家族のニーズ』としてNPOびーす理事長 小田多佳子が講師をする。
- 
- 7月4日：NHK大阪放送局より、『びーすの防災への取り組み』に関してラジオ取材を受ける。
- 7月8日：クレオ大阪南主催より講演依頼を受け、びーす理事長小田多佳子が『障がい児の母がNPOを作ったら？困難を希望に換える 私の生き方〜』のテーマで講演する。
- 7月10日：堺市立通園施設もず園保護者会より依頼を受け、コンサートを企画する。
- 7月19日：東京都練馬区防災課と障害施策推進課より依頼を受け、『災害時における障がい者の避難生活』としてNPOびーす理事長 小田多佳子が講演する。
- 
- 7月31日：大阪府立療養学校職員向けセミナーの『障がい児の放課後について』の講師を理事長 小田が務める。
- 
- 8月：全日本手をつなぐ育成会 情報冊子『手をつなぐ』8月号に『障がい児のための防災を考えるプロジェクト』が掲載される。
- 8月：堺市男女共同参画推進課より発行の冊子『Windy』の「エンパワメントな人々」の中にびーす理事長 小田多佳子が紹介される。
- 
- 8月31日：堺市立えのきはいむ保護者会より依頼を受けコンサートを企画する。
- 
- 9月22日：おもちゃ図書館ぼっぼからの依頼で、『びーすの就学相談会』を開催する。松本・出来が担当。
- 9月25日：堺市立百舌鳥養護学校 小学部5年生の保護者より依頼を受け、『サポートブックの作り方について』講師を大西俊介と出来薫が務める。
- 9月27日：7月に取材を受けたびーすの防災への取り組みがNHK大阪放送局NHK第1ラジオ 『関西ラジオワイド』（関西一円）の中で紹介される。
- 
- 9月30日：中区『公民協働型まちづくり推進懇談会』に副理事長 松本が参加する。
- 
- 10月15日：日本自閉症協会兵庫県支部三田ブロックオーキッドの会主催より、講演依頼を受け、『自閉症の人への支援〜堺市NPOびーすの取り組みから〜』で、びーす副理事長 松本尚子が講演をする。
- 10月19日：堺市立百舌鳥養護学校 低学年の保護者より依頼を受け、『ちょっと教えて！こんなときどうしたらいいの？なんでも相談会』を大西俊介と山本真美がアドバイザーを勤める。
- 10月26日：堺市中区保健センター 子ども連絡会より依頼を受け、子どもの障がい受容の話しやNPOびーすの活動について副理事長 松本が話をする。
- 
- 11月2～13日：めだか教室への講演依頼をうける。子育て体験や就園についての話をする。
- 
- 12月14日：読売新聞大阪支社より『びーすの防災への取り組み』に関して取材を受ける。
- 
- 1月：びーすの防災への取り組みが堺市教育委員会発行 人権啓発冊子『しあわせをめざして手をつなごう 第38集』（H20年1月発行）『つたわってる？』に掲載される。
- 
- 1月22日：堺市災害時要援護者避難支援実証等業務におけるヒアリング調査へ協力する。
- 
- 3月：株式会社ナムコ 福祉事業（ハッスル倶楽部）のHPに障害のある人のための支援機器の中『トーキングエイドとやあくんの変身』が掲載される。
- 3月8日：大阪府重要施策プロジェクトチームが府内のNPOのリサーチのためびーすに来所、スタッフと懇談を持つ。
- 3月9日：堺市発達障害者支援センター開所記念／堺市・大阪大学発達障害児支援研究講演会『発達障害ってなんだろう？』保護者・支援者の立場からNPOびーす理事長 小田多佳子が講演をする。
- 3月19日：堺市発達障害者支援センター連絡協議会に副理事長 松本が参加する。
- 3月27日：堺市障害者施策推進協議会 発達障害者施策専門部会に委員として理事長 小田が参加する。



## ただいま募集中！

びーす利用会員 ・びーすのメールマガジン（月1回）が届きます。  
・メールニュースふぁにい（毎週月～金）が届きます。  
・びーす支援の余暇活動（びっぴ、ドロップスなど）への参加ができます。  
入会費 1,000円 月会費 400円

びーす賛助会員 ・びーすのメールマガジン（月1回）が届きます。  
・年間報告書が届きます。  
会費一口 1,000円（年間）※何口でもOK

びーすのヘルパーステーション

登録ホームヘルパー、ガイドヘルパー

仕事内容：主に、児童の外出支援や家での見守り

時間帯：平日の昼間～夕方や土日祝日

特に水曜日 14:00～18:00、土曜日 11:00～17:00

活動可能な方、急募しています！

週1回、月1回でも大歓迎です。

詳しくは、びーす なかもず事務所までお問合せください。

## 賛助会費などの振込は・・・

郵便局の場合 記号：14050 番号：44431611 特定非営利活動法人びーす

銀行の場合 三井住友銀行 中もず支店 普通 0640329 特定非営利活動法人びーす

特定非営利活動（NPO）法人 びーす

堺市北区百舌鳥梅町3丁39-18

電話 072-250-9060

FAX 072-250-9061

文責：小田多佳子（理事長）